

2024 年度 国際学会・シンポジウム開催助成 実施報告書

2024 年 7 月 18 日(木)

申請者:経営学部専任教授 キアナン パトリック ジェイムス

1. シンポジウム名

“Fostering Z~ α -Gen Global Leaders for Advancing SDGs and Beyond: International Tripartite Panel Discussion”

(邦題)「SDGs 推進の先を見据えた Z~ α 世代グローバルリーダーの育成:国際パネルディスカッション」

2. 開催日時:2024 年 7 月 12 日(金)14:00~16:30

3. 開催場所:グローバルフロント・グローバルホール

4. 開催方法:対面およびオンライン(ウェビナー)

5. シンポジウムの概要

a. 目的

将来の持続可能なグローバル社会実現に向け、サステナビリティ経営を担う次世代グローバルリーダーについて、国際的かつ学際的な視点から求められる人材の資質と具体的な育成方法について、各領域登壇者からの発表にもとづき、包括的に議論する。

b. 対象者

- ・企業、NPO 等で、サステナビリティ経営を担当する実務家
- ・国際的な SDGs や社会の持続可能な発展のテーマに関心のある一般社会人
- ・SDGs理解教育や実践的な探求学習を通じた学習活動に取り組む学校関係者
- ・将来のキャリアとして、サステナビリティ経営や起業に関心をもつ他大学を含む学生・大学院生

c. 登壇者

ファシリテーター:パトリック キアナン専任教授

パネリスト①:ジャン ベビントン教授(英国ランカスター大学 Pentland Centre 所長)

パネリスト②:ロス スチュワート教授(米国シアトルパシフィック大学 SBGE 学部長)

パネリスト③:下田恭美准教授(早稲田大学社会科学総合学術院准教授)

パネリスト④:永井裕久(明治大学経営学部特任教授)

6. 実施結果

a. 参加人数:会場対面(41 名)・オンライン(61 名) 計 102 名

b. 実施方法

効率的な会議運営のため、プログラムの使用言語を英語に統一し、会場およびオンライン参加者向けに英語→日本語の同時通訳を提供した。聴衆はスマホやタブレット、PC 等から二言語選択できる方式を用いた。また、オンライン投票システム(Slido)を活用し、パネルディスカッションの優先順位を3択で投票し、本テーマに関する理解度をパネルディスカッション前後で測定した。これにより、登壇者、会場参加者、オンライン参加者の議論における一体感の醸成を図った。

b. プログラム(題目はいずれも邦題)

1. 開会挨拶(キアナン教授)

2. 基調報告「クロスボーダー課題解決力を育成するための国際ハイブリッド教育と学修効果測定」 (永井教授)

3. 講演①「持続可能な開発目標への企業の貢献」(ベビントン所長)
4. 講演②「PRME(責任ある経営教育原則)Champion 校のカリキュラム開発」(スチュワート学部長)
5. 講演③「日本とアジアの社会起業家:クロスボーダー経験と起業との関係を考える」(下田准教授)

c. 得られた知見

本シンポジウムの参加者は、学生・大学院生から社会人、また国内・海外(比率は約半数ずつ)のオンライン入室者から構成され、本テーマに対する国内外の幅広い層からの高い関心が伺えた。登壇者は日米英の3カ国の異なる研究分野からの多面的なアプローチにより、分野横断的かつ相互補完的な議論を展開することが出来た。また、最後の質疑応答では学部生(明治大学経営学部1年生)、大学院生(早稲田大学)から英語での確かな質問が提起され、次世代自身の積極的な姿勢は登壇者にも感銘を与えた。技術的な観点では、オンライン同時通訳は会場参加者とオンライン参加者の双方にシームレスな会議環境を提供する上で、非常に有効な手段であった。また、クリッカー導入は、短時間に聴衆の反応を測定する有効なデジタルデバイスとしての新たな利活用の可能性が示唆された。

7. 今後の国際研究交流に向けた成果

海外招聘研究者のシアトルパシフィック大学のスチュワート学部長とは、三菱みらい育成財団プロジェクト(2023-2025)に基づき、国際共同研究、研究者交流の一層の促進が確認された。また、両校の国際交流の一貫として、2025年4月~6月にかけて、同校から客員研究員(Guest Scalar)の本学経営学部への受入れを双方で確認した。ランカスター大学のベビントン所長とは、同校のPentland Centerとの情報交換を促進し、将来的な国際共同研究の可能性を継続的に模索していくことが確認された。